

クラウドネイティブが切り開く小売業の新時代 - CCoE・SREの実践 -

リテール業界の市場動向と課題

リテール業界を取り巻く環境は、急速なデジタル化や市場のダイナミズムによって大きく変化している。

- **マルチチャネル化・ビジネス形態の変化**

- 生活環境の変化による多様な購買方法への期待が高まり、ECサイトやモバイルアプリなど、顧客接点のマルチチャネル化が進んでいる
- プロダクトを持つメーカーが消費者と直接製品を売買するDTC（Direct To Consumer）などの新しいビジネスが勢いを増している

- **需要パターンやユーザ行動予測の複雑化**

- 複数チャネルの利用によって、消費者行動予測は複雑になり、機会損失を防ぐための適切な商品管理もこれまで以上に難しくなる

このような変化にスピード感を持って対応するには、先進的なIT技術の導入や組織文化の醸成が必要不可欠となる。

近年、消費者主導のサプライチェーンが急速に進展しており、リテール業界は大きな変革期を迎えている。

- **購買行動の多様化とマルチチャネル**

- ECサイトだけでなく、モバイルアプリやSNSなど、複数チャネルを通じた購買が増えている
- ユーザとの接点を増やすため、様々な企業がマルチチャネル化の推進に力を入れている

- **新しいビジネスモデルや競合の進出**

- プロダクトを持つメーカーが消費者と直接製品を売買するDTC（Direct To Consumer）が台頭し、既存の小売ビジネスに対して新たな競争が生まれつつある
- OMO（Online Merge Offline）を実現するため、一部ではデジタル店舗の活用も進んでいる

- **需要パターン予測の難しさ**

- グローバルでの消費活動が盛んになったことや、生活環境の変化によって、消費者の需要パターン予測が複雑化している
- サステナビリティへの配慮も各企業の重要な経営指標となりつつある中で、商品の廃棄を減らしつつ機会損失を産まないよう、適切な在庫管理など高度なサプライチェーン計画も求められる

このような状況の中で、リテール業界が直面している課題には以下のようなものが挙げられる。

1. **チーム間のスキル差**： 関係組織が一体となって迅速にビジネス検証やシステム開発を進めたいが、チームや組織ごとに技術知識のばらつきがあり、舵取りに時間がかかる。
2. **データ活用の難易度**： ユーザやサプライチェーンから得られるデータが膨大かつ複雑になり、可視化や活用への期待はあるものの意思決定に活かせていない。
3. **システムの柔軟性**： 需要パターンの変化に柔軟に対応したいが、初期のサイジングに依存し、ユーザ行動の変化によってシステムをスケールすることができない。

これらの課題は、迅速な意思決定によるビジネスのアジリティ向上や、安定的なシステム運用におけるユーザ体験向上を目指す上で、深刻な障壁となっていく。

課題解決に向けた効果的な取り組み

近年のリテール業界が抱える課題に対応し、柔軟かつ迅速にビジネスを発展させるためには、以下のような技術的・組織的アプローチが有効となる。

1. クラウドネイティブ

マイクロサービス、コンテナ、Kubernetes等を利用して、スケーラブルなシステムを構築する。先進的なクラウド利用手法を取り入れることにより、ユーザの利用パターンの変化に柔軟に対応できる。

2. CCoE (クラウドセンターオブエクセレンス)

組織内でクラウド専門知識を集約し、効率的なクラウド運用を推進する。クラウド戦略の策定、ガバナンスの確立、スキルの育成、セキュリティとコンプライアンスの管理など、企業のクラウド利用を全面的にサポートできる体制を作る。

3. SRE (サイトリライアビリティエンジニアリング)

運用自動化やデータ可視化など、システムの信頼性と効率を高めるための高度な技術知識を持つチームを組織する。運用にソフトウェアエンジニアリングの原則を適用し、さまざまな自動化や情報の可視化を通して、データドリブンな運用やコミュニケーションを促進する。

1. クラウドネイティブ

- **自動監視や柔軟なオートスケーリング**

- マイクロサービス、コンテナ、Kubernetes等を利用して、柔軟に拡張・縮小できるシステムを構築することはリテール業界のシステムにおいて非常に重要となる
- ユーザー行動や市場環境の変化に対応するためには、クラウドネイティブ技術を活用し、自動監視やオートスケーリングが可能なシステムを構築することが求められる

- **可用性を向上させながらコスト削減も可能**

- クラウドサービスや先進的なシステムアーキテクチャを採用することで、システムの可用性を高め、ユーザ行動に応じてスケールしつつも、余剰リソースは極力減らしてコスト削減を目指すことが可能になる



需要の変動に応じて効率的にリソースを管理し、ビジネスの機会を最大限に活用することが可能となる。

2. CCoE（クラウドセンターオブエクセレンス）

- **クラウドに関する知識とベストプラクティスを共有**
 - ビジネス環境の変化に対応し、持続的なイノベーションを実現するためには、クラウド技術の採用がと高度な活用が必要となる
 - システムやプロジェクト横断的な専門組織が存在することで、各開発において迅速かつ柔軟なクラウド利用をサポートすることが可能
- **スキルの育成やセキュリティ管理なども実施**
 - クラウド戦略の策定、ガバナンスの確立、スキルの育成、セキュリティとコンプライアンスの管理など、高度なクラウド技術知識を集約・活用できる



クラウドを用いて、変化に対応するためのPDCAサイクルを高速に回し、ビジネス変革を加速するためには、こうした専門知識を集約した組織の設立が非常に有効となる。

3. SRE (サイトリライアビリティエンジニアリング)

- **システムの信頼性や開発生産性を高める**
 - システムの信頼性と効率を高めるため、運用にソフトウェアエンジニアリングの原則を適用し、開発自動化などの高度な運用技術知識を持つチームを組織することも大切
 - システムの信頼性が高まることにより、各チャネルに対する顧客満足度の向上が期待できる
- **迅速な意思決定やコミュニケーションにデータを活用する**
 - さまざまな運用自動化やデータ可視化などを通して、データドリブンな運用やコミュニケーションを促進することが可能になる



SREの手法を取り入れ、システムの信頼性と効率を高めるとともに、データ分析と可視化ツールを用いて情報を統合し、迅速な意思決定ができるようにすることが重要となる。

実践のポイント

課題解決の重要なポイントとなるCCoE、SRE、クラウドネイティブを現場に取り入れ、適切に活用していくためには、以下のような実践のポイントも考慮する必要がある。

- **段階的な導入**

- まずは小規模なプロジェクトや特定の部門から始める
- 導入の際のリスクを最小限に抑えつつ、段階的に経験を積み、徐々に全社規模での導入を図る

- **組織文化の変革**

- CCoEやSREなど、新しい考え方を浸透させるには、技術だけでなく組織文化の変革も伴う必要がある
- チーム間のコミュニケーションや協働を促進し、組織全体としての変革を推進することが必要

- **継続的な技術知識のアップデート**

- クラウド技術は日々進化するため、組織の設立や取り組みスタート後も常に最新のクラウド技術とトレンドに対応し、技術力をアップデートすることが重要
- 組織やエンジニアにおける技術知識の強さは、ビジネスの変化に柔軟に対応し、競争力を維持する大きなポイントになる

● マルチチャネルやデジタル化と、最新技術の導入

- リテール企業がビジネスの更なる発展を目指す上で、マルチチャネルやデジタル化は非常に重要なポイントとなる
- CCoEやSRE、クラウドネイティブといった最先端の組織文化や技術を導入することで、各システムの信頼性を高めながら、高速にPDCAサイクルを回して、ビジネス機会や新たな価値の創出により迅速に取り組むことができる
- これら技術・組織の高度な活用により、企業のデジタルトランスフォーメーションを加速し、今後の市場変化に対応しながら、顧客満足度を高めることにも繋がる

● スリーシェイクによるリテール業界の課題解決をご支援

- 高度なクラウドネイティブスキルを持ったエンジニアやアーキテクトを擁し、クラウド利用に関する総合的な技術支援が可能
- CCoEやSREの組閣・コンサルティングから、SRE運用内で使用するツールの導入など、上記の取り組みに関して全般的にご支援可能

お悩みやご相談がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

ご支援の相談がございましたら
次のお問い合わせ先にご連絡ください。

3>SHAKE

お問い合わせ先：

株式会社スリーシェイク

住所： 東京都新宿区大京町22-1

URL: <https://sreake.com/contact/>

Email: business@3-shake.com

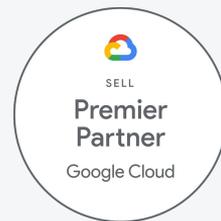
会社概要

会社名 株式会社スリーシェイク
設立日 2015/1/15
代表者 代表取締役社長 吉田 拓真
所在地 東京都新宿区大京町22-1
グランファースト新宿御苑3F・4F

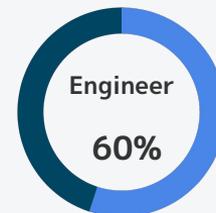
Mission: インフラをシンプルにして
イノベーションが起こりやすい世界を作る

Vision: 労苦 (Toil) を無くすサービスを適正な価格で提供し続ける

Value: エンジニアリングレイヤーに横たわる人、手法、ツールが
サイロ化されて労苦が発生しているプロセスをシンプルにし
サービス機能開発に集中できるソリューション
(SRE、DevSecOps、DataOps、HROps) を提供する



Google Cloud、AWSの両方に強みを持ち
SREを軸にご支援





SRE/DevOps



- ・ SRE総合支援からセキュリティ対策を全方位支援
- ・ Geminiを用いた生成AIの活用支援

BizOps



- ・ クラウド型ETL/データパイプラインSaaSの決定版
- ・ あらゆるSaaSをノーコードで連携

SecOps



- ・ ワンストップで脆弱性診断を行うセキュリティ対策SaaS

HR



- ・ ハイスキルフリーランスエンジニア紹介エージェント



IT内製化 / 高度化

クラウドネイティブ化

モダナイゼーション

ITアジリティ向上

Thank You